

経営比較分析表（令和4年度決算）

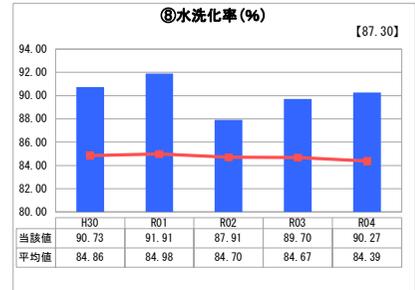
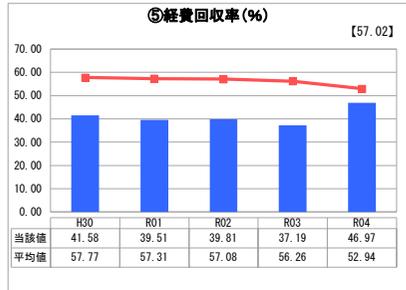
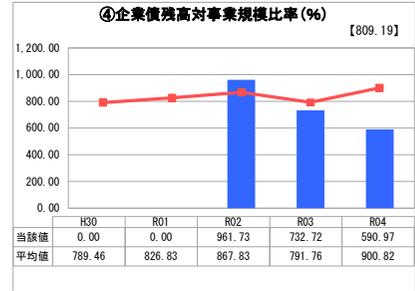
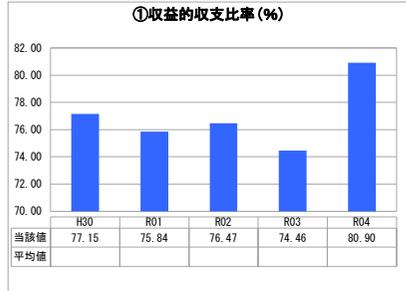
宮城県 串間市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	2.87	91.02	2,530

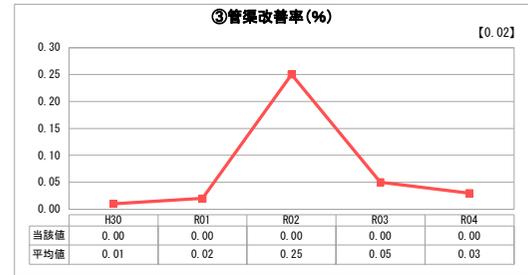
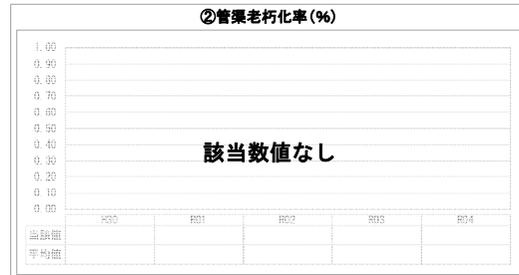
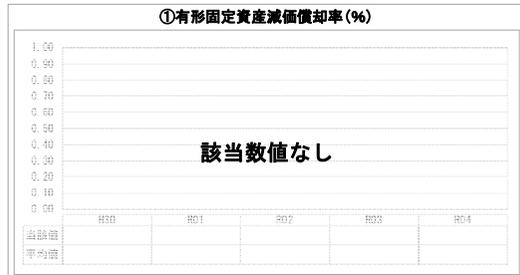
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,990	294.92	57.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
483	0.41	1,178.05

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①収益的収支比率」については、100%を下回っているため、財源確保に努めるとともに費用を抑制し、100%を常に超えるようにする必要があります。

「④企業債残高対事業規模比率」については、近年大きな事業が無く企業債を発行していないため企業債残高が減少していますが、今後の施設更新に備え、計画的な運営を行っていく必要があります。

「⑤経費回収率」「⑥汚水処理原価」については経費回収率ができる限り100%に近づき、費用の抑制に努め汚水処理原価を抑えていく必要があります。

「⑦施設利用率」「⑧水洗化率」については、施設利用率が低く改善する必要がありますが、既に水洗化率が90%を超えており、区域内の人口動態も踏まえると新たな加入は見込めず今後も厳しい状況が続くと考えられたため、施設規模の見直し（ダウンサイジング）を行うなど経費削減に努めてまいります。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設は平成10年に供用を開始しており、平成30年度に実施した機能診断結果を基に策定した最適整備構想では、令和8年度に大規模改修が見込まれているため、計画的な施設更新を行っていく必要があります。

全体総括

水洗化率は100%が望ましいですが、90%を超えており、公共用水域の水質保全や快適で文化的な生活環境確保の観点からは、良い状況であります。汚水処理原価は類似団体と比較すると高い状況であることから、費用の抑制を図りながら、経営の健全化に努めていく必要があります。

今後施設の老朽化の進行や、処理区域内の人口減少により、維持管理に係る負担は増加してまいります。維持管理適正化計画及び事業実施計画を策定し、施設規模の見直し（ダウンサイジング）や新技術の導入の検討などを含め、計画的な施設更新を行い、持続可能な運営を図ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。